

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		大学生のための実践的な心理学 Practical Lectures on the Psychology for University Students				担当者所属 職名・氏名		学生総合支援機構 准教授 中川 純子 学生総合支援機構 講師 和田 竜太 学生総合支援機構 准教授 古川 裕之 学生総合支援機構 特定助教 中藤 信哉	
群	健康・スポーツ科目群		分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・開講期	2025・前期		曜時限	月2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
少なくともますます自己破滅的となっていくのを避けるため、多少なりともよりよい人間関係を築いていくため、心理学的な観点から、学生生活への実際的な示唆をなるべく含んだ講義を行いたい。									
[到達目標]									
日常の大学生生活に起きるさまざまな体験や困難さを心理学的にとらえてみる視点をもてるようになり、自身や他者、社会への理解を深める。 大学生なりの自立した生活を構築していくとともに、それが困難な場合、援助を適切な対象に求めることができるようになる。									
[授業計画と内容]									
4人の講師によるリレー講義。それぞれの講師の興味・経験・個性を背景として、提示したテーマに沿った講義を行う。全体でアカデミックカレンダーを超えない範囲で、各テーマにつき3～4回程度の講義を行う予定。各講師のテーマと、そこに含まれるサブテーマは以下の通り。									
1（中川）キャンパス・ハラスメントを考える（3～4回） 大学の日常生活の延長でキャンパスハラスメントに遭う、あるいはしてしまう可能性を、ネット、エロス、パワーの局面で心理的に考察する。									
2（和田）自己・他者・社会（3～4回） ・自分を知る（「大人になること」を手がかりに） ・他者を知る（「自己」と「他者」の関係をめぐって） ・社会とつながる（具体的なポイントを取り上げて）									
3（古川）コミュニケーションについて考える（3～4回） 近年、コミュニケーション能力がますます重視されているように思われるが、コミュニケーションとは何なのかについて、様々なツールの特性や、具体的場面を交えて考えたい。									
4（中藤）青年期の心理的危機と居場所（3～4回） 移行の時期でもある青年期に問題となりやすい心理的危機や課題について知るとともに、移行をこなしていくために大切となる「居場所」のありようについても理解を深める。									
[履修要件]									
特になし									
<div style="text-align: right;">             ----- 大学生のための実践的な心理学(2)へ続く -----           </div>									

## 大学生のための実践的な心理学(2)

### 【成績評価の方法・観点】

小レポート4回。4回中3回以上の提出を必要条件とする。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に適宜紹介します。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考書は、決して全部とは言いませんが、興味を持たれたものについてぜひ読んでみてください。

### 【その他（オフィスアワー等）】

受講希望者が多数の場合、教室収容定員に合わせて受講制限を行う場合があります。

### 【主要授業科目（学部・学科名）】